

国内唯一の特別支援教育のナショナルセンターがこの横須賀に！？
全国の先生が集まる専門研修のほか、ネットでも講義や実践事例を配信！

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

横須賀のバリアフリー子育て情報局

sukasuka-ippo

http://www.sukasuka-ippo.com

発行責任者 / 五本木 愛 編集 / 竹島



横須賀にありながら、なかなかその存在が知られていないこちらの研究所。全国から特別支援教育に関わる先生方が研修に訪れるほか、国の政策立案や施策の推進にもその研究成果が生かされているまさに特別支援教育のナショナルセンター！でも研究所という響きから距離を感じてしまう方も多いのでは？今回の取材では、学校教育の現場で活用できる支援教育の実践事例から私たち障害児の親が実際の生活で使えるようなアイデアまで、誰でも気軽に情報を得られるようになってきていることを知ることができました。

■全国の先生が集まり2ヵ月間泊まり込みで専門研修！

特別支援教育に関する専門研修は、各地域における指導的立場の教職員の育成を目的として各障害ごとに年3回に分けて実施。年間200人の先生方が参加しています。開講式から始まり、大学のような講義のほか、例えばアイマスクをして外に出てどのような困難さがあるかを実際に体験してみるような演習、実際に学校に赴く実地研修やグループ協議なども行っています。

■教員向け特別支援教育の研修講義をインターネット配信

105タイトル公開中。登録が必要ですが一般の方も視聴できます。<http://www.nise.go.jp/cms/news/detail.9.11177.html>

■教育現場における合理的配慮の実践事例をウェブで配信！

現在、教育の現場ではインクルーシブ（障害のある子どもも一緒に学び、支えあえる）教育システムの構築が盛んに議論され、2016年4月に施行された『障害者差別解消法』によって、学校においても合理的配慮の提供が義務化されました。

こちらの『インクルーシブ教育システム構築支援データベース』のウェブサイトでは、その合理的配慮の実践事例150件ほど（2016.06現在）を公開していますが、すごい数のアクセスがあったそうです。「合理的配慮」とか「インクルーシブ教育」など、障害者に関わる用語の解説はもちろん、通常の学級や支援学級などの学校種別・学年・障害の種類などによる事例も検索できるようになっています。全て文部科学省のモデル事業で集めたもので、今後、個人情報の扱いなどをきちんと精査した上で順次公表し、5年間で500事例を掲載する予定というお話でした。

■支援機器について、ポータルサイトで紹介しています。

単に支援機器だけを載せるのではなく、実際の使い方事例も併せて紹介しているサイトで、2016.06現在は教材・支援機器566件、実践事例71件をご紹介します。障害種ごとに分類されているほか、「国語で使える教材にはどんなものがあるだろう？」など科目ごとにも見られるようになっていて、先生方にもご利用いただいています。<http://kyozai.nise.go.jp/>

■研究所公開やイベントなどで啓発にも努めています

発達障害の見え方などの疑似体験や実際に車いすに乗ってもらうなど体験型の見学のほか、障害者スポーツイベント、映画の上映会なども実施しています。2016年は11月5日（土）に開催予定。

■国立特別支援教育総合研究所 (NISE) の基本情報 (National Institute of Special Needs Education)



〒239-8585 横須賀市野比5-1-1

TEL / 046-839-6803

FAX / 046-839-6918

Mail / somu@nise.go.jp

職員数 / 研究職員45名、事務員29名

詳しくはホームページで！ >> <http://www.nise.go.jp/>
発達障害教育情報センター>> <http://icedd.nise.go.jp>

1971年に重度重複障害の教育について専門的に研究する目的で国立特別支援教育総合研究所として設立されたのが最初。その2年後に隣接する久里浜支援学校が設立。教育業界の中での変革として平成19年特別支援教育の制度が始まり、それに伴い現名称に変更しています。

■さあ、施設見学へ！

■障害者のためのリラクゼーションルーム

その名も「スヌーズレンルーム」。1970年代にオランダで始まった障害者のためのリラクゼーション施設で、暗い室内にはウォーターベッドがあり、光が優しく揺れ、アロマの香りがしたり…。5感を使ってリラックスできる幻想的な空間になっています。

■発達障害教育情報センター、ウェブの情報発信は必見！

発達障害に関する教育に関する教育の情報を扱っています。学習障害やADHD、自閉症、アスペルガー症候群などはもちろん、診断の有無に限らず通常の学級で学習や生活・人間関係に配慮を必要とするお子さんの研究が進み、みなさんの役に立つ情報を提供していきたいとの考えからウェブサイトを設置、年間10万件くらいのアクセスがあります。

特に好評の『研修コンテンツ』は2016.06現在21本公開していますが、発達障害の基礎となる部分について先生から見た保護者との関わり、医学的側面からの自閉症の解説なども掲載。1本の長さも15～20分と短めの講義にまとめられているので、是非参考になさってください。<http://icedd.nise.go.jp>

■一般の方も利用可能！専門書も揃う図書室

所蔵は7万冊程。教育関係、特別支援教育関係、障害に関連する医療関係のほか、国内外の雑誌や点字、拡大教科書まで。ホームページからオンラインで誰でも蔵書を検索できます。

■『ICT活用実践演習室』

小学校3、4年生の教室を想定して造られたこの部屋ではICTをどのように授業の中で活用できるかを研究・研修できます。

先生が頭にウェアブルカメラを装着すると、別室の研修室でもその先生と同じ目線で授業をモニターすることができる仕組み。授業時にきちんと子どもたちへ配慮ができていないかを確認することができ、その様子は記録もされます。

■障害種別ごとの機器を展示しているiライブラリー

例えば筆談パッド（対面に同じ文字が現れるアプリ）やスイッチで作動する玩具やゲームなどが機器を展示されています。

■アイデアや工夫がいっぱい！生活支援研究棟

重度重複障害の方に対しての生活環境面での手がかりや支援のアイデアが展示がされていました。

■sukasuka-ippo 代表・五本木愛の視点

今回、取材に伺い、全国から支援級の先生方が泊まり込みで研修に来られ、多くの学びを各々の学校に持ち帰り、広めていることを知りました。これは、特別支援級の質の向上には欠かせない取り組みです。その大きな意味を成す研究所がこの横須賀にあるということは誇るべきことだと思います。しかし、残念ながら、灯台下暗しで横須賀市内の学校や支援級の先生方にはあまり周知されていないというお話も伺いました。これほど残念なことはありません。個々の保護者ができることには限りがあるかもしれませんが、せつかく知り得た情報です。「まずは身近なところから！そう、私自身が我が子が通う学校に活用をお願いをしていくところから！」という想いで、この研究所の存在を発信していこうと思いました。

